

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201579		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム ともえ		
所在地	静岡県葵区上土1丁目17-95		
自己評価作成日	平成29年2月22日	評価結果市町村受理日	平成29年 4月 22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の高齢化が進み、外出支援は殆ど行っていません。各自好きなように過ごして頂いているのが現状です。天気の良い日は散歩に出かけ巴川の魚をみたりご近所の方との会話を楽しませています。隣接している幼稚園の子どもたちとの交流も時々ですがあり楽しませています。季節感を感じて頂けるように季節にあった壁飾りを飾っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2016\\_022\\_kani=true&JgyosyoCd=2274201579-00&PrefCd=22&VersionCd=022](http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JgyosyoCd=2274201579-00&PrefCd=22&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 29年	3月	24日

1月に交代した管理者の介護に対する熱い思いは職員に伝わり、利用者と職員が笑顔で安心した暮らしが出来る理念の下、一緒に取り組んでいる。長期に入浴の出来なかった人に職員同士が連携し無理強いはなく楽しい雰囲気を作りながらの対応で入浴後は表情が明るくなり、その後数日おきには入浴するようになっていたり、協力医のホームクリニックの事務員2名による音楽療法が定期的に来る時、一緒に歌ったり身体を動かして、表情が明るくなっている。普段、音のない空間ではなく、カセットやテレビから音楽が流れていて利用者の表情が明るくなり、重度の人も落ち着いて穏やかに過ごせる時間が増えてきている。管理者は家族と距離を近づけたいと家族が面会に来たときや電話でコミュニケーションをとるようにし、推進会議への参加の呼びかけに「行くよ」と協力者が増えてきている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己		項目	自己評価	外部評価	
外部	実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を念頭に、利用者様の対応は笑顔で行い安心感を持っていただけるよう努力をしている。隣接している保育園、近所の店で買い物等、心がけて実践している。	昨年の目標達成計画にあげ、新しく「笑顔があふれる安心した暮らしが出来る家」の理念を作り、利用者職員がどうしたら相手の思いを知り、笑顔になって楽しく過ごせるか、全体会議で日頃の利用者の対応で気づいた点を話し合い、管理者と職員が一緒になって取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接している保育園の子供たちやご家族との挨拶や利用者様と一緒に近所に買い物に出かけ、顔を覚えていただいている。回覧板に行事のピラを入れさせてもらうこともある。運動会やお祭り、敬老会等の地域の行事に参加している。	最近あまり外に出る機会が少ないが、近くの巴川に鯉の餌(パン)をもち出かけた時に近所の人と会い、挨拶を交わしている。隣接の保育園の園長は大家で、施設の理解者であって災害時の協力を得ている。28年度まで園児との交流があったが、今年の3月で閉園になった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事のお知らせ(お祭りや防災訓練)を回覧板を活用させて頂き行っている。運営推進会議でも地域の方からの認知症に対する質疑応答の時間を設け話をする機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議での皆様からの意見を集約し、ホームの全体会議で職員に報告し、話し合いを行っている。	民生委員から日程を決めてくれると参加がしやすいとの提案を受け、年間計画を作り、関係者に発送している。家族の面会時に声をかけると「行くよ」と言ってくれる人が増えてきて、介護相談員も参加してくれるようになり、地域住民や包括との連携をとってより良い会議になる取り組みをしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方が多いため、生活支援課の方との連絡は頻繁に行っている。運営推進会議は地域包括の方に参加して頂く為に平日に行うようにしている。介護相談員の方も今後は推進会議に参加したいと言って下っている。	管理者は包括職員との連携に取り組みたいと会議の案内を持参してコミュニケーションをとるようにしている。行政の支援課や介護保険課など関係課に出向き話をするようにし、電話での相談もしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各自、身体拘束の知識を習得し、全体会議等で議題としてあげ、話し合いをしている。玄関の施錠は日中はせず、19時～6時の時間帯のみ施錠している。	日夜大声を出し、他の利用者トラブルを起こす利用者の病態をホームドクターと話し合い、薬を調整し、寄り添うケアで身体拘束はしていない。玄関のチャイムで外に出る利用者の動きは概ね把握していて、職員は止めることなく、一緒に出て近くの川や施設周辺等を回り落ち着くまで見守っている。	

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修、ホーム内研修で虐待についての研修を行っている。介助法、言葉使い等の日頃のケアの再確認を行い入浴時もアザや外傷確認を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修で権利擁護、成年後見人制度についての研修を行っている。実際に権利擁護を利用されている入居者様が数人おられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にメリットだけでなく、デメリットについても説明を行い理解を得ている。また、不安や疑問等についてはその都度説明を行い、理解、納得をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月月次報告書を送らせて頂き、日頃の様子をご家族に伝えている。玄関にご意見箱を設置し匿名で意見しやすいように工夫している。ご家族からの意見や要望は会議で話し合ったり管理者と家族で話し合いの場を設けて対応している。	家族とは計画作成を含め直接会って話し合う機会が少なかったが、管理者は家族との距離を近づけたいとホームへ来てもらえるよう声をかけて、意見や要望を聞くようにしている。ちょっとしたクレームや意見など家族からの言葉に職員と対応方法を話し合っって対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ユニット介護時に広く意見、提案を聞き話し合い実行に移している。また申し送りノート等を利用し意見の交換を行うこともある。その他、個人面談を行い行けにや提案を言いやすくするよう努力している。	ここ数年はレクなどの活動はなく、活気のない施設になっていたが、職員は利用者の喜ぶことをしてあげたいとの思いをレクの実施等で反映させるように取り組んでいる。職員は申し送りノートに意見を記入し管理者は見て会議で取り上げ反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	取得した資格にもよるが、資格手当があることでやりがいをもたらしている。人手不足により残業も多くなっているが、15分単位で残業代が支払われている。ホーム内研修を行う事で職員の向上心を高める努力をしている。外部研修も掲示してある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社にて月に一度管理者会議を開き、代表者と意見交換を行っている。ホーム内研修で職員間で研修を行ったり、社内研修や外部研修に参加した職員が報告する場を設け、情報を共有できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議、社内研修、委員会活動等で他のホームの職員や管理者同士が交流を図れる機会を提供されている。法人内の他ホームの行事に参加する等の交流も行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談時にご本人との話をしっかり伺いアセスメントを細かく記載し職員間で情報を共有し、ご本人の望む生活ができるように、その方らしい生活ができるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が不安に思う事や、不満等をホームに対して話しやすいような環境づくりに努めており、訴えや要望があった場合は耳を傾け、良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来るだけご家族の希望を取り入れている。面会時や電話時に親しみやすく話せる環境を作ることで、信頼関係を築くよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人一人が何が出来るか模索し、その方にふさわしい日常の過ごし方を考えている。一緒に掃除をしたり、食器拭き、洗濯干し、洗濯物を畳む等の家事を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には月に1度月次報告書を送らせて頂き、ご家族と情報を共有できるようにしている。また面会に来られた際には積極的に話しかけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人等との関係が継続できるように自由に面会に来て頂いている。	家族以外の訪問者は少ないが、定期的に来ているボランティアの人や訪問理美容の人・ホームドクターや看護師、施設の職員と馴染みの関係になっている。利用者の絵の作品や入居前撮っていた写真を活かす等、利用者の趣味ややりたいこと、喜ぶことを広げるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、良い関係が築けるように支援している。自室にこもられる方には定期的に訪室し声掛けを行い、集団が苦手な方には無理強いせず本人の意思を尊重している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方へのお見舞いや面会、ご家族へは季節の挨拶状を送りたい。ご家族からの連絡には誠意をもって対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	耳の遠い方には身振り手振りのジェスチャーを交え、意思の疎通がなるべく可能になるよう努めている。会話の中でその方の本心をくみ取ることができるよう努めている。	日常の会話からや呟く言葉を拾って思いを把握している。会話の困難な人の様子を観察し、どんな時に何をしたら喜ぶか反応をみて、思いやして欲しいことを推し図って対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスの再読し確認している。ご家族がいる方はご家族に情報を伺い、ご家族がいない利用者様とは話の中で引き出すよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に健康状態には注意をはらっており、自室にこもりがちの方は定期的な声掛け、居間に来くなるような雰囲気を作るよう努めている(音楽を流す等)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスに参加できないご家族が多い為、面会時に話す時間を設けさせて頂き、現状報告や、ご家族の意見を聞くよう努めている。カンファレンスや会議でよりよい支援方法を話し合い申し送りを徹底し、本人、ご家族、関係者の意見、意向を反映したプランを作成するよう努めている。	カンファレンスの前に本人に話し、意向をくみ取ってから毎月職員で見直し、その人に必要なことを話し合っている。どうしてもこられない家族には郵送するが、家族の来所を待って話し合うように心がけ、意見を聞いて現状に即した介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート、ケース記録、モニタリング等に記入し情報の共有に努めており、それを元にカンファで話し合い介護計画の実践や見直しに活かせるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	会社の理念でもある「その人そのために」を念頭に個別対応として柔軟な支援を心掛けている。現状に合わせた支援を出来るようにご家族、職員で話す時間を設けさせて頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問歯科、訪問理美容を使用しています。ご家族や友人の協力も得て外出支援も行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在入居されている方は皆様在宅訪問診療に移行されており毎月2回の往診の他、毎月全員診察の日も設けて対応している。特変があった場合も臨時診察で対応しており適切な医療を受けられている(24時間対応)	協力医であるホームクリニックから1ヶ月の訪問予定日がファックスで届き、全員受診は1ヶ月に1度、他、月2回の往診で診てもらっている。バイタル異常や特変があった時はいつでも24時間対応が可能で、職員も安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の訪問看護の他、静岡ホームクリニックの看護師がほぼ毎日訪問しており、利用者様の特変はすぐに報告し相談もしくは受診できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様が入院された場合はご家族だけでなくホーム側も話を伺い、入院中も病院に足を運びながら病院関係者と情報交換、情報確認をしている。また、医師との話し合いにも参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、家族の意思を尊重しており、看取りに関しては医師、看護師、ご家族、職員が可能と判断した場合に実施している。看取りの研修も行っている。	入居時に方針の説明をし看取りの希望を聞いて同意書ももらっている。医師の判断で家族や看護師と管理者で話し合い、看取り計画を作成するようになっている。職員はホームクリニックの医師が講師の看取りの研修を受けている。医療体制が整っていて家族の協力の下、看取り支援をしている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成し、ホーム内で研修を行っている。また急変や事故があった場合はホームドクターに連絡し必要に応じた指示を受けている。(24時間対応)消防署を招き応急処置の方法等の講習も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを配布し、研修もやっている。また定期的に防災訓練を行い、日中または夜間を想定した内容で行っている。地域住民の協力を得ている。	5月に夜間を想定した訓練を実施、11月に2階で火災発生を想定し、1階と2階の利用者を順番に避難させる訓練を行った。近隣の同法人のホーム職員をはじめ、元職員も入っての「災害助け合い名簿」が壁に掲示されていて、隣接の大家さんの協力が得られるなど協力体制を築いている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	穏やかに過ごして頂けるよう、無理強いはず本人に任せることも心がけている。言葉かけには十分注意を払い、気分を損ねるような言葉かけは行わないように心がけている。	利用者のプライバシーに配慮し、居室へノックして入室する、入浴時に突然扉を開けることはせず、トイレ誘導や排泄時には羞恥心に配慮した声掛けや対応に気をつけている。その人の状態・状況によって丁寧語だけでなく、相手の喜ぶような話し方で楽しい雰囲気をつくっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択できることに関してはご本人に選択して頂いたり、洋服を選ぶ際は一緒に選ぶ等で自己決定を促すよう努めている。会話の中で思いや希望をあらわされた場合はなるべくその気持ちに沿うよう努力をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活しながらも個々のペースをなるべく優先するよう努めている。職員側の都合でなく、利用者様が主体ということを常々職員に伝えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選ぶ時は一緒に選ぶように心がけている。外出時は特にお洒落を楽しんで頂くよう支援している。女性は整髪、男性は髭剃り等、爪切り等の介助を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	丼物が苦手な方にはご飯と副食を別々に提供したり、嫌いなものがある時は他のおかずを提供する等の支援をしている。野菜の皮むきやもやしの髭取り、食器拭き等を一緒に関わって行うよう努めている。	職員は個々の好き、嫌いな物を把握していて違う物をだすなどあわせ対応をしている。「何が食べたい？」と声をかけ、希望を入れた献立を考え3食職員の手作りで提供している。職員は利用者の様子を見ながら適切な声掛けし、同じ物を食べている。おやつ等は一緒につくることがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの水分量や食事は毎日記録することで職員間で情報を共有している。水分摂取ができていない方にはゼリーや好きな飲物を提供する等の支援を行い、食事に関しても摂取しやすい形態にして提供している。(とろみ使用等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方には声掛けで口腔ケアを促し見守りを行い、介助が必要な方は職員が介助で行っている。歯磨き、うがいが出来ない方は、口腔ケア用スポンジやウェットティッシュ等を用いて行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方に合った支援をおこなっており、布パンツの方もおられる。排泄パターンをしっかり把握する為に、最近書式を変更し、よりわかりやすくするよう努めている。一日の中でも日中と夜間の対応を変える等でその方に合った対応を心掛けている。	布パンツで自立してトイレに行く人の事後の確認や昼夜PTイレ、夜間のみPTイレ、重度の人でオムツ使用の人などの多種の支援をしている。排泄チェック表を明確に流れがわかる書式に変更し、記録を見てトイレに誘導するようにしているが、記入漏れがあるなど今後の課題である。	自立で行く人の確認や正確な排泄チェック表の記入をすることで適切な誘導により、排泄の自立支援に繋がる取り組みに期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を用いて個々の排便パターンの把握に努めている。牛乳やヨーグルト、食物繊維の多い食材を提供したり、下剤処方に対応している。今後は軽い運動にも取り組んでいきたい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を定めることなく、午前午後を決めず入りたい時間になるべく添えるように努めている。また、少しでも楽しんで頂けるように入浴剤を2～3種類用意して好きな色や香りを選んで頂いている。	入りたい希望があれば見守り、1人介助で要望に応えられるようにしている。拒否を続け長期で入浴できてなかった人に、職員同士で連携をとって楽しくなるような声をかけながら浴室まで誘導し、入浴した後は表情が明るくなり、その後は数日おきに入浴をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前のライフスタイルのまま畳に布団の方もあられたり身体状況に合わせて介護ベッドを使用する等、一人一人の状態に合わせて安心して睡眠がとれるよう支援している。日中の休息も自由にとって頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服薬中の薬のファイルを用意しており、職員間で情報を共有し理解するよう努めている。処方された薬をちゃんと内服して頂くように名前確認、飲み込み確認等を行いながら服薬介助している。症状の変化があった場合はホームドクターに報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人が現状でできることを模索し、役割を持って頂くことで充実した生活ができるように支援している。趣味を活かせるよう努め、嗜好品も提供できるように支援しています。散歩や好きな音楽を聴く、DVD鑑賞等で気分転換できるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換に近くの川まで散歩に出かけたり、車でドライブに出かけたりしている。本人の希望によりご家族の協力で出かけることもある。	外出を拒む人にこもりがちにしないよう玄関のベンチで外気浴をしたり、気分転換に声をかけ、餌のパンを用意して近くの巴川に行き鴨や鯉に餌をあげている。イベントで外出する機会もあまりないが、車で数人買い物に行くことはある。	新しい管理者は施設内で楽しく暮らせるレクの取り組みのみでなく、外出イベントの実施を考えている。利用者・職員と話し合い季節を感じる外出等の支援に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は殆どの方は出来ないのでホームで管理しているが、買い物と一緒に出掛け、お金を払う際は財布はご本人にお渡しし、払って頂くことを試みるも、職員に渡されることが多いのが現状である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に制限していないが、ご家族がいない方も多くおられる、またはご家族の面会、電話、手紙等が一切ない方もおられる。今後は利用者様からご家族に季節の挨拶状等を送ることを支援していきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関スペースで熱帯魚を飼育している。玄関、廊下、居間等に利用者様の描いた絵や職員との共同作業で作った作品を掲示し季節感を感じて頂けるように努めている。	音のない活気のない空間があったので、カセットで音楽を流したり、テレビで昔懐かしい歌が聞こえるようにしたことで利用者の表情が明るくなり、身体を動かしたり、歌を唄うようになってきた。全員入浴の実施やトイレ内の確認等環境整備で臭いのない普通に会話や笑い声が聞こえる明るい空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う同士で同じテーブルを囲むようにしたり、所々にソファを置き、一人でテレビを観たり音楽を楽しめるよう空間の演出をしている。または玄関、外にもソファやベンチを置き、いつでも利用して頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際にご家族、またはご本人と一緒に家具やベッド、たたみ等の配置を相談しながら行っています。使い慣れた家具を配置し居心地良く過ごせる空間づくりをしている。	入居前は畳の生活だったと畳に布団・低ベッドの横に畳の部屋や家族が頻繁に訪れる部屋には長いすやソファが置かれ寛げるようになっていたり、入居前からのコレクションを飾っている人などその人が過ごしやすい居室になっている。居室担当職員と一緒に掃除をする人もいて清潔を保っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室等に手すりを設置しており、安全に移動できるよう、または自立して行えるよう支援している。浴槽内は滑らないように滑り止めマットを敷いている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を念頭に、利用者様の対応は笑顔で行い安心感を持っていただけるよう努力をしている。隣接している保育園、近所の店で買い物等、心がけて実践している。	昨年の目標達成計画にあげ、新しく「笑顔があふれる安心した暮らしが出来る家」の理念を作り、利用者職員がどうしたら相手の思いを知り、笑顔になって楽しく過ごせるか、全体会議で日頃の利用者の対応で気づいた点を話し合い、管理者と職員が一緒になって取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接している保育園の子供たちやご家族との挨拶や利用者様と一緒に近所に買い物に出かけ、顔を覚えていただいている。回覧板に行事のピラを入れさせてもらうこともある。運動会やお祭り、敬老会等の地域の行事に参加している。	最近あまり外に出る機会が少ないが、近くの巴川に鯉の餌(パン)をもち出かけた時に近所の人と会い、挨拶を交わしている。隣接の保育園の園長は大家で、施設の理解者であって災害時の協力を得ている・28年度まで園児との交流があったが、今年の3月で閉園になった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事のお知らせ(お祭りや防災訓練)を回覧板を活用させて頂き行っている。運営推進会議でも地域の方からの認知症に対する質疑応答の時間を設け話をする機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議での皆様からの意見を集約し、ホームの全体会議で職員に報告し、話し合いを行っている。	民生委員から日程を決めてくれると参加がしやすいとの提案を受け、年間計画を作り、関係者に発送している。家族の面会時に声をかけると「行くよ」と言ってくれる人が増えてきて、介護相談員も参加してくれるようになり、地域住民や包括との連携をとってより良い会議になる取り組みをしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方が多いため、生活支援課の方との連絡は頻繁に行っている。運営推進会議は地域包括の方に参加して頂く為に平日に行うようにしている。介護相談員の方も今後は推進会議に参加したいと言って下っている。	管理者は包括職員との連携に取り組みたいと会議の案内を持参してコミュニケーションをとるようにしている。行政の支援課や介護保険課など関係課に出向き話をするようにし、電話での相談もしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各自、身体拘束の知識を習得し、全体会議等で議題としてあげ、話し合いをしている。玄関の施錠は日中はせず、19時～6時の時間帯のみ施錠している。	日夜大声を出し、他の利用者トラブルを起こす利用者の病態をホームドクターと話し合い、薬を調整し、寄り添うケアで身体拘束はしていない。玄関のチャイムで外に出る利用者の動きは概ね把握していて、職員は止めることなく、一緒に出て近くの川や施設周辺等を回り落ち着くまで見守っている。	

静岡県(グループホームともえ )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修、ホーム内研修で虐待についての研修を行っている。介助法、言葉使い等の日頃のケアの再確認を行い入浴時もアザや外傷確認を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修で権利擁護、成年後見人制度についての研修を行っている。実際に権利擁護を利用されている入居者様が数人おられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にメリットだけでなく、デメリットについても説明を行い理解を得ている。また、不安や疑問等についてはその都度説明を行い、理解、納得をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月月次報告書を送らせて頂き、日頃の様子をご家族に伝えている。玄関にご意見箱を設置し匿名で意見しやすいように工夫している。ご家族からの意見や要望は会議で話し合ったり管理者と家族で話し合いの場を設けて対応している。	家族とは計画作成を含め直接会って話し合う機会が少なかったが、管理者は家族との距離を近づけたいとホームへ来てもらえるよう声をかけて、意見や要望を聞くようにしている。ちょっとしたクレームや意見など家族からの言葉に職員と対応方法を話し合っって対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ユニット介護時に広く意見、提案を聞き話し合い実行に移している。また申し送りノート等を利用し意見の交換を行うこともある。その他、個人面談を行い行けにや提案を言いやすくするよう努力している。	ここ数年はレクなどの活動はなく、活気のない施設になっていたが、職員は利用者の喜ぶことをしてあげたいとの思いをレクの実施等で反映させるように取り組んでいる。職員は申し送りノートに意見を記入し管理者は見て会議で取り上げ反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	取得した資格にもよるが、資格手当があることでやりがいをもたらしている。人手不足により残業も多くなっているが、15分単位で残業代が支払われている。ホーム内研修を行う事で職員の向上心を高める努力をしている。外部研修も掲示してある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社にて月に一度管理者会議を開き、代表者と意見交換を行っている。ホーム内研修で職員間で研修を行ったり、社内研修や外部研修に参加した職員が報告する場を設け、情報を共有できるようにしている。		

静岡県(グループホームともえ )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議、社内研修、委員会活動等で他のホームの職員や管理者同士が交流を図れる機会を提供されている。法人内の他ホームの行事に参加する等の交流も行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談時にご本人との話をしっかり伺いアセスメントを細かく記載し職員間で情報を共有し、ご本人の望む生活ができるように、その方らしい生活ができるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が不安に思う事や、不満等をホームに対して話しやすいような環境づくりに努めており、訴えや要望があった場合は耳を傾け、良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来るだけご家族の希望を取り入れている。面会時や電話時に親しみやすく話せる環境を作ることで、信頼関係を築くよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人一人が何が出来るか模索し、その方にふさわしい日常の過ごし方を考えている。一緒に掃除をしたり、食器拭き、洗濯干し、洗濯物を畳む等の家事を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には月に1度月次報告書を送らせて頂き、ご家族と情報を共有できるようにしている。また面会に来られた際には積極的に話しかけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人等との関係が継続できるように自由に面会に来て頂いている。	家族以外の訪問者は少ないが、定期的に来ているボランティアの人や訪問理美容の人・ホームドクターや看護師、施設の職員と馴染みの関係になっている。利用者の絵の作品や入居前撮っていた写真を活かす等、利用者の趣味ややりたいこと、喜ぶことを広げるように努めている。	

静岡県(グループホームともえ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、良い関係が築けるように支援している。自室にこもられる方には定期的に訪室し声掛けを行い、集団が苦手な方には無理強いせず本人の意思を尊重している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方へのお見舞いや面会、ご家族へは季節の挨拶状を送りたい。ご家族からの連絡には誠意をもって対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	耳の遠い方には身振り手振りのジェスチャーを交え、意思の疎通がなるべく可能になるよう努めている。会話の中でその方の本心をくみ取ることができるよう努めている。	日常の会話からや呟く言葉を拾って思いを把握している。会話の困難な人の様子を観察し、どんな時に何をしてあげたら喜ぶか反応をみて、思いやして欲しいことを推し図って対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスの再読し確認している。ご家族がいる方はご家族に情報を伺い、ご家族がいない利用者様とは話の中で引き出すよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に健康状態には注意をはらっており、自室にこもりがちの方は定期的な声掛け、居間に来なくなるような雰囲気を作るよう努めている(音楽を流す等)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスに参加できないご家族が多い為、面会時に話す時間を設けさせて頂き、現状報告や、ご家族の意見を聞くよう努めている。カンファレンスや会議でよりよい支援方法を話し合い申し送りを徹底し、本人、ご家族、関係者の意見、意向を反映したプランを作成するよう努めている。	カンファレンスの前に本人に話し、意向をくみ取ってから毎月職員で見直し、その人に必要なことを話し合っている。どうしてもこられない家族には郵送するが、家族の来所を待って話し合うように心がけ、意見を聞いて現状に即した介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート、ケース記録、モニタリング等に記入し情報の共有に努めており、それを元にカンファで話し合い介護計画の実践や見直しに活かせるよう努めている。		

静岡県(グループホームともえ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	会社の理念でもある「その人そのために」を念頭に個別対応として柔軟な支援を心掛けている。現状に合わせた支援を出来るようにご家族、職員で話す時間を設けさせて頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問歯科、訪問理美容を使用しています。ご家族や友人の協力も得て外出支援も行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在入居されている方は皆様在宅訪問診療に移行されており毎月2回の往診の他、毎月全員診察の日も設けて対応している。特変があった場合も臨時診察で対応しており適切な医療を受けられている(24時間対応)	協力医であるホームクリニックから1ヶ月の訪問予定日がファックスで届き、全員受診は1ヶ月に1度、他、月2回の往診で診てもらっている。バイタル異常や特変があった時はいつでも24時間対応が可能で、職員も安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の訪問看護の他、静岡ホームクリニックの看護師がほぼ毎日訪問しており、利用者様の特変はすぐに報告し相談もしくは受診できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様が入院された場合はご家族だけでなくホーム側も話を伺い、入院中も病院に足を運びながら病院関係者と情報交換、情報確認をしている。また、医師との話し合いにも参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、家族の意思を尊重しており、看取りに関しては医師、看護師、ご家族、職員が可能と判断した場合に実施している。看取りの研修も行っている。	入居時に方針の説明をし看取りの希望を聞いて同意書ももらっている。医師の判断で家族や看護師と管理者で話し合い、看取り計画を作成するようになっている。職員はホームクリニックの医師が講師の看取りの研修を受けている。医療体制が整っていて家族の協力の下、看取り支援をしている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成し、ホーム内で研修を行っている。また急変や事故があった場合はホームドクターに連絡し必要に応じた指示を受けている。(24時間対応)消防署を招き応急処置の方法等の講習も行っている。		

静岡県(グループホームともえ )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを配布し、研修もやっている。また定期的に防災訓練を行い、日中または夜間を想定した内容で行っている。地域住民の協力を得ている。	5月に夜間を想定した訓練を実施、11月に2階で火災発生を想定し、1階と2階の利用者を順番に避難させる訓練を行った。近隣の同法人のホーム職員をはじめ、元職員も入っての「災害助け合い名簿」が壁に掲示されていて、隣接の大家さんの協力が得られるなど協力体制を築いている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	穏やかに過ごして頂けるよう、無理強いはず本人に任せることも心がけている。言葉かけには十分注意を払い、気分を損ねるような言葉かけは行わないように心がけている。	利用者のプライバシーに配慮し、居室へノックして入室する、入浴時に突然扉を開けることはせず、トイレ誘導や排泄時には羞恥心に配慮した声掛けや対応に気をつけている。その人の状態・状況によって丁寧語だけでなく、相手の喜ぶような話し方で楽しい雰囲気をつくっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択できることに関してはご本人に選択して頂いたり、洋服を選ぶ際は一緒に選ぶ等で自己決定を促すよう努めている。会話の中で思いや希望をあらわされた場合はなるべくその気持ちに沿うよう努力をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活しながらも個々のペースをなるべく優先するよう努めている。職員側の都合でなく、利用者様が主体ということを常々職員に伝えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選ぶ時は一緒に選ぶように心がけている。外出時は特にお洒落を楽しんで頂くよう支援している。女性は整髪、男性は髭剃り等、爪切り等の介助を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	丼物が苦手な方にはご飯と副食を別々に提供したり、嫌いなものがある時は他のおかずを提供する等の支援をしている。野菜の皮むきやもやしの髭取り、食器拭き等を一緒に関わって行うよう努めている。	職員は個々の好き、嫌いな物を把握して違う物をだすなどあわせた対応をしている。「何が食べたい？」と声をかけ、希望を入れた献立を考え3食職員の手作りで提供している。職員は利用者の様子を見ながら適切な声掛けし、同じ物を食べている。おやつ等は一緒につくることがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの水分量や食事は毎日記録することで職員間で情報を共有している。水分摂取ができていない方にはゼリーや好きな飲物を提供する等の支援を行い、食事に関しても摂取しやすい形態にして提供している。(とろみ使用等)		

静岡県(グループホームともえ )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方には声掛けで口腔ケアを促し見守りを行い、介助が必要な方は職員が介助で行っている。歯磨き、うがいが出来ない方は、口腔ケア用スポンジやウェットティッシュ等を用いて行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方に合った支援をおこなっており、布パンツの方もおられる。排泄パターンをしっかり把握する為に、最近書式を変更し、よりわかりやすくするよう努めている。一日の中でも日中と夜間の対応を変える等でその方に合った対応を心掛けている。	布パンツで自立してトイレに行く人の事後の確認や昼夜PTイレ、夜間のみPTイレ、重度の人でオムツ使用の人などの多種の支援をしている。排泄チェック表を明確に流れがわかる書式に変更し、記録を見てトイレに誘導するようにしているが、記入漏れがあるなど今後の課題である。	自立で行く人の確認や正確な排泄チェック表の記入をすることで適切な誘導により、排泄の自立支援に繋がる取り組みに期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を用いて個々の排便パターンの把握に努めている。牛乳やヨーグルト、食物繊維の多い食材を提供したり、下剤処方でも対応している。今後は軽い運動にも取り組んでいきたい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を定めることなく、午前午後を決めず入りたい時間になるべく添えるように努めている。また、少しでも楽しんで頂けるように入浴剤を2～3種類用意して好きな色や香りを選んで頂いている。	入りたい希望があれば見守り、1人介助で要望に応えられるようにしている。拒否を続け長期で入浴できてなかった人に、職員同士で連携をとって楽しくなるような声をかけながら浴室まで誘導し、入浴した後は表情が明るくなり、その後は数日おきに入浴をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前のライフスタイルのまま畳に布団の方もあられたり身体状況に合わせて介護ベッドを使用する等、一人一人の状態に合わせて安心して睡眠がとれるよう支援している。日中の休息も自由にとって頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服薬中の薬のファイルを用意しており、職員間で情報を共有し理解するよう努めている。処方された薬をちゃんと内服して頂くように名前確認、飲み込み確認等を行いながら服薬介助している。症状の変化があった場合はホームドクターに報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人が現状でできることを模索し、役割を持って頂くことで充実した生活ができるように支援している。趣味を活かせるよう努め、嗜好品も提供できるように支援しています。散歩や好きな音楽を聴く、DVD鑑賞等で気分転換できるように支援しています。		

静岡県(グループホームともえ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換に近くの川まで散歩に出かけたり、車でドライブに出かけたりしている。本人の希望によりご家族の協力で出かけることもある。	外出を拒む人にこもりがちにしないよう玄関のベンチで外気浴をしたり、気分転換に声をかけ、餌のパンを用意して近くの巴川に行き鴨や鯉に餌をあげている。イベントで外出する機会もあまりないが、車で数人買い物に行くことはある。	新しい管理者は施設内で楽しく暮らせるレクの取り組みのみでなく、外出イベントの実施を考えている。利用者・職員と話し合い季節を感じる外出等の支援に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は殆どの方は出来ないのでホームで管理しているが、買い物と一緒に掛け、お金を払う際は財布はご本人にお渡しし、払って頂くことを試みるも、職員に渡されることが多いのが現状である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に制限していないが、ご家族がいない方も多くおられる、またはご家族の面会、電話、手紙等が一切ない方もおられる。今後は利用者様からご家族に季節の挨拶状等を送ることを支援していきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関スペースで熱帯魚を飼育している。玄関、廊下、居間等に利用者様の描いた絵や職員との共同作業で作った作品を掲示し季節感を感じて頂けるように努めている。	音のない活気のない空間があったので、カセットで音楽を流したり、テレビで昔懐かしい歌が聞こえるようにしたことで利用者の表情が明るくなり、身体を動かしたり、歌を唄うようになってきた。全員入浴の実施やトイレ内の確認等環境整備で臭いのない普通に会話や笑い声が聞こえる明るい空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う同士で同じテーブルを囲むようにしたり、所々にソファを置き、一人でテレビを観たり音楽を楽しめるよう空間の演出をしている。または玄関、外にもソファやベンチを置き、いつでも利用して頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際にご家族、またはご本人と一緒に家具やベッド、たたみ等の配置を相談しながら行っています。使い慣れた家具を配置し居心地良く過ごせる空間づくりをしている。	入居前は畳の生活だったと畳に布団・低ベッドの横に畳の部屋や家族が頻りに訪れる部屋には長いすやソファが置かれ寛げるようになっていたり、入居前からのコレクションを飾っている人などその人が過ごしやすい居室になっている。居室担当職員と一緒に掃除をする人もいて清潔を保っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室等に手すりを設置しており、安全に移動できるよう、または自立して行えるよう支援している。浴槽内は滑らないように滑り止めマットを敷いている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201579		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム ともえ		
所在地	静岡市葵区上土1丁目17-95		
自己評価作成日	平成29年2月22日	評価結果市町村受理日	平成 29年 4月 22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の高齢化が進み、外出支援は殆ど行っていません。各自好きなように過ごして頂いているのが現状です。天気の良い日は散歩に出かけ巴川の魚をみたりご近所の方との会話を楽しませています。隣接している幼稚園の子供たちとの交流も時々ですがあり楽しませています。季節感を感じて頂けるように季節にあった壁飾りを飾っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2016\\_022\\_kani=true&JgyosyoCd=2274201579-00&PrefCd=22&VersionCd=022](http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JgyosyoCd=2274201579-00&PrefCd=22&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成 29年	3月	24日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を念頭に、利用者様の対応は笑顔で行い安心感を持っていただけるよう努力をしている。隣接している保育園、近所の店で買い物等、心がけて実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接している保育園の子供たちやご家族との挨拶や利用者様と一緒に近所に買い物に出かけ、顔を覚えていただいている。回覧板に行事のピラを入れさせてもらうこともある。運動会やお祭り、敬老会等の地域の行事に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事のお知らせ(お祭りや防災訓練)を回覧板を活用させて頂き行っている。運営推進会議でも地域の方からの認知症に対する質疑応答の時間を設け話をする機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議での皆様からの意見を集約し、ホームの全体会議で職員に報告し、話し合いを行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方が多いため、生活支援課の方との連絡は頻繁に行っている。運営推進会議は地域包括の方に参加して頂く為に平日に行うようにしている。介護相談員の方も今後は推進会議に参加したいと言って下っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各自、身体拘束の知識を習得し、全体会議等で議題としてあげ、話し合いをしている。玄関の施錠は日中はせず、19時～6時の時間帯のみ施錠している。		

静岡県(グループホーム ともえ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修、ホーム内研修で虐待についての研修を行っている。介助法、言葉使い等の日頃のケアの再確認を行い入浴時もアザや外傷確認を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修で権利擁護、成年後見人制度についての研修を行っている。実際に権利擁護を利用されている入居者様が数人おられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にメリットだけでなく、デメリットについても説明を行い理解を得ている。また、不安や疑問等についてはその都度説明を行い、理解、納得をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月月次報告書を送らせて頂き、日頃の様子をご家族に伝えている。玄関にご意見箱を設置し匿名で意見しやすいように工夫している。ご家族からの意見や要望は会議で話し合ったり管理者と家族で話し合いの場を設けて対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ユニット介護時に広く意見、提案を聞き話し合い実行に移している。また申し送りノート等を利用し意見の交換を行うこともある。その他、個人面談を行い行けにや提案を言いやすくするよう努力している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	取得した資格にもよるが、資格手当があることでやりがいをもたらしている。人手不足により残業も多くなっているが、15分単位で残業代が支払われている。ホーム内研修を行う事で職員の向上心を高める努力をしている。外部研修も掲示してある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社にて月に一度管理者会議を開き、代表者と意見交換を行っている。ホーム内研修で職員間で研修を行ったり、社内研修や外部研修に参加した職員が報告する場を設け、情報を共有できるようにしている。		

静岡県(グループホーム ともえ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議、社内研修、委員会活動等で他のホームの職員や管理者同士が交流を図れる機会を提供されている。法人内の他ホームの行事に参加する等の交流も行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談時にご本人との話をしっかり伺いアセスメントを細かく記載し職員間で情報を共有し、ご本人の望む生活ができるように、その方らしい生活ができるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が不安に思う事や、不満等をホームに対して話しやすいような環境づくりに努めており、訴えや要望があった場合は耳を傾け、良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来るだけご家族の希望を取り入れている。面会時や電話時に親しみやすく話せる環境を作ることで、信頼関係を築くよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人一人が何が出来るか模索し、その方にふさわしい日常の過ごし方を考えている。一緒に掃除をしたり、食器拭き、洗濯干し、洗濯物を畳む等の家事を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には月に1度月次報告書を送らせて頂き、ご家族と情報を共有できるようにしている。また面会に来られた際には積極的に話しかけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人等との関係が継続できるように自由に面会に来て頂いている。		

静岡県(グループホーム ともえ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、良い関係が築けるように支援している。自室にこもられる方には定期的に訪室し声掛けを行い、集団が苦手な方には無理強いせず本人の意思を尊重している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方へのお見舞いや面会、ご家族へは季節の挨拶状を送りたい。ご家族からの連絡には誠意をもって対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	耳の遠い方には身振り手振りのジェスチャーを交え、意思の疎通がなるべく可能になるよう努めている。会話の中でその方の本心をくみ取ることができるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスの再読し確認している。ご家族がいる方はご家族に情報を伺い、ご家族がいない利用者様とは話の中で引きだすよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に健康状態には注意をはらっており、自室にこもりがちな方は定期的な声掛け、居間に来くなるような雰囲気を作るよう努めている(音楽を流す等)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスに参加できないご家族が多い為、面会時に話す時間を設けさせて頂き、現状報告や、ご家族の意見を聞くよう努めている。カンファレンスや会議でよりよい支援方法を話し合い申し送りを徹底し、本人、ご家族、関係者の意見、意向を反映したプランを作成するよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート、ケース記録、モニタリング等に記入し情報の共有に努めており、それを元にカンファで話し合い介護計画の実践や見直しに活かせるよう努めている。		

静岡県(グループホーム ともえ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	会社の理念でもある「その人そのために」を念頭に個別対応として柔軟な支援を心掛けている。現状に合わせた支援を出来るようにご家族、職員で話す時間を設けさせて頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問歯科、訪問理美容を使用しています。ご家族や友人の協力も得て外出支援も行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在入居されている方は皆様在宅訪問診療に移行されており毎月2回の往診の他、毎月全員診察の日も設けて対応している。特変があった場合も臨時診察で対応しており適切な医療を受けられている(24時間対応)		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の訪問看護の他、静岡ホームクリニックの看護師がほぼ毎日訪問しており、利用者様の特変はすぐに報告し相談もしくは受診できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様が入院された場合はご家族だけでなくホーム側も話を伺い、入院中も病院に足を運びながら病院関係者と情報交換、情報確認をしている。また、医師との話し合いにも参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、家族の意思を尊重しており、看取りに関しては医師、看護師、ご家族、職員が可能と判断した場合に実施している。看取りの研修も行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成し、ホーム内で研修を行っている。また急変や事故があった場合はホームドクターに連絡し必要に応じた指示を受けている。(24時間対応)消防署を招き応急処置の方法等の講習も行っている。		

静岡県(グループホーム ともえ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを配布し、研修も行っている。また定期的に防災訓練を行い、日中または夜間を想定した内容で行っている。地域住民の協力を得ている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	穏やかに過ごして頂けるよう、無理強いはず本人に任せることも心がけている。言葉かけには十分注意を払い、気分を損ねるような言葉かけは行わないように心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択できることに関してはご本人に選択して頂いたり、洋服を選ぶ際は一緒に選ぶ等で自己決定を促すよう努めている。会話の中で思いや希望をあらわされた場合はなるべくその気持ちに沿うよう努力をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活しながらも個々のペースをなるべく優先するよう努めている。職員側の都合でなく、利用者様が主体ということを常々職員に伝えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選ぶ時は一緒に選ぶように心がけている。外出時は特にお洒落を楽しんで頂くよう支援している。女性は整髪、男性は髭剃り等、爪切り等の介助を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	丼物が苦手な方にはご飯と副食を別々に提供したり、嫌いなものがある時は他のおかずを提供する等の支援をしている。野菜の皮むきやもやしの髭取り、食器拭き等を一緒に関わって行うよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの水分量や食事は毎日記録することで職員間で情報を共有している。水分摂取ができていない方にはゼリーや好きな飲物を提供する等の支援を行い、食事に関しても摂取しやすい形態にして提供している。(とろみ使用等)		

静岡県(グループホーム ともえ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方には声掛けで口腔ケアを促し見守りを行い、介助が必要な方は職員が介助で行っている。歯磨き、うがいが出来ない方は、口腔ケア用スポンジやウェットティッシュ等を用いて行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方に合った支援をおこなっており、布パンツの方もおられる。排泄パターンをしっかりと把握する為に、最近書式を変更し、よりわかりやすくするよう努めている。一日の中でも日中と夜間の対応を変える等でその方に合った対応を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を用いて個々の排便パターンの把握に努めている。牛乳やヨーグルト、食物繊維の多い食材を提供したり、下剤処方でも対応している。今後は軽い運動にも取り組んでいきたい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を定めることなく、午前午後に決めず入りたい時間になるべく添えるように努めている。また、少しでも楽しんで頂けるように入浴剤を2~3種類用意して好きな色や香りを選んで頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前のライフスタイルのまま畳に布団の方もあられたり身体状況に合わせて介護ベッドを使用する等、一人一人の状態に合わせて安心して睡眠がとれるよう支援している。日中の休息も自由にとって頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服薬中の薬のファイルを用意しており、職員間で情報を共有し理解するよう努めている。処方された薬をちゃんと内服して頂くように名前確認、飲み込み確認等を行いながら服薬介助している。症状の変化があった場合はホームドクターに報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人が現状でできることを模索し、役割を持って頂くことで充実した生活ができるように支援している。趣味を活かせるよう努め、嗜好品も提供できるように支援しています。散歩や好きな音楽を聴く、DVD鑑賞等で気分転換できるように支援しています。		

静岡県(グループホーム ともえ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換に近くの川まで散歩に出かけたり、車でドライブに出かけたりしている。本人の希望によりご家族の協力で出かけることもある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は殆どの方は出来ないのでホームで管理しているが、買い物と一緒に掛付け、お金を払う際は財布はご本人にお渡しし、払って頂くことを試みるも、職員に渡されることが多いのが現状である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に制限していないが、ご家族がいない方も多くおられる、またはご家族の面会、電話、手紙等が一切ない方もおられる。今後は利用者様からご家族に季節の挨拶状等を送ることを支援していきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関スペースで熱帯魚を飼育している。玄関、廊下、居間等に利用者様の描いた絵や職員との共同作業で作った作品を掲示し季節感を感じて頂けるように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う同士で同じテーブルを囲むようにしたり、所々にソファを置き、一人でテレビを観たり音楽を楽しめるよう空間の演出をしている。または玄関、外にもソファやベンチを置き、いつでも利用して頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際にご家族、またはご本人と一緒に家具やベッド、たたみ等の配置を相談しながら行っています。使い慣れた家具を配置し居心地良く過ごせる空間づくりをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室等に手すりを設置しており、安全に移動できるよう、または自立して行えるよう支援している。浴槽内は滑らないように滑り止めマットを敷いている。		